

都市医師会 だより

平成29年度 札幌市医師会医政講演会
平成30年3月1日

社会的共通資本と医療
父、宇沢弘文の伝えたかったこと

札幌市医師会理事
政策部長 荒木啓伸

3月1日、札幌市医師会医政講演会を札幌会館大ホールで開催しました。今回は、宇沢国際学館取締役で内科医師でもある占部まり氏を講師に迎え、「社会的共通資本と医療 父、宇沢弘文の伝えたかったこと」をテーマにご講演をいただきました。占部氏は、日本を代表する経済学者である故宇沢弘文氏のご長女です。当日は、大変な悪天候にも関わらず、会員等78名にお集まりいただきました。

ご講演では、まず始めに、鳥取県米子で生まれた故宇沢氏は、上京したのち一高で数学を学ぶも、河上肇の『貧乏物語』に接し心を揺さぶられ、経済学に転向したというエピソードをご紹介いただきました。その後宇沢氏は、論文がケネスアロー氏に認められスタンフォード大学に渡り、その後シカゴ大学の教授をつとめるも帰国を決意した経緯について、また、帰国後の公害問題や成田闘争、地球温暖化問題にも関心を持ち、自然を「資本」ととらえる画期

的な視点を取り入れたことが説明されました。次いで、社会的共通資本の考え方について解説。さらに、ゆたかな社会の基本的な諸条件の一つとして宇沢氏が挙げた「疾病、障害にさいして、そのときどきにおける最高水準の医療サービスを受けることができる」を紹介し、現代においても全く色褪せることのない考え方に驚かされました。

講演の中で占部氏は、医療に関し、倫理観を高めること、死生学の再構築、内科診断学の再評価が重要であることを指摘しました。医療は原則として出来高算定であるにもかかわらず、医師は高い倫理観で適切な医療を提供してきたと述べ、会場の医師は勇気づけられたことと思います。また、高齢者にとって一人暮らしはストレスが少なく気楽であることも多いと指摘し、「孤独死」から「孤高死」へと提唱し、会場からは共感の声が聞かれました。さらに、占部氏が代表理事を務める日本メメント・モリ協会についても触れ、死を想うことで生を充実させることを目的としており、そのためには、医療者のみならず、宗教者、哲学者など他分野の人と多角的に死を考える場の提供が必要であるとの説明がなされました。

それぞれの項目に対して、大変わかりやすくかつ丁寧にご講演をいただき、講演後は会場の参加者から活発に質問、意見等が出され、大変有意義な講演会となりました。



北海道医報ファイルについて

北海道医報本誌を1年分綴ることができるファイルを用意しております。

ご希望の方に無償にてお送りいたしますので、下記まで送付先ならびに希望数をご連絡ください。

記

申込先：北海道医師会事業第一課
〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目
TEL 011-231-7661 FAX 011-241-3090
E-mail ihou@m.dou.jp

